

「電子書籍の出現と紙の書物の運命について思う」

森泉弘次

IT時代もここまで来たか、と思わせる複数の特異な現象がマスコミでとり上げられる昨今だが、その中でもっともわたしの注目を引いたのが「電子書籍の出現とその普及」の記事である。わたし自身も、現在翻訳の仕事パソコンを使ってやっているの、現代の急速なIT化の趨勢(すうせい)に棹を差す一人ではあるが、しかしインターネットやEメールを自由に使って仕事をし、暮らしているかと問われると、生来の機械音痴が災いして「自由な使用」とはほど遠い段階に留まっている。したがって上の問題について公平な評価をする資格があるか、まことにこころもとないのだが、しかし避けては通れない重大な問題なので、一考してみようと思う。

つい一週間前のことである。馴染みの書店の一つ、荻窪タウン・セブン6階の新星堂に寄って、知人である、タイのバンコック駐在ソニー社員一家に贈る三冊の本を買った。そのうちの一冊(沢村貞子『台所の遺産』)が著者名、タイトル、装丁いづれもたいへん魅力的だったので、自分用にも一冊注文したら、オーナーらしい落ち着いた感じの初老の男性店員が「申し訳ありませんが、月末に店を閉めるので、注文は受け付けられません」と言う。「そうですか、閉店とは残念ですね」というと、「電子書籍が普及し始めた御時勢ですから、普通の単行本は売れ行き不振なのですよ」という答えが返ってきた。「いや、電子書籍が普及していくからといって、こうした地味で美しい装丁と活字の本が求められなくなるなんて考えられませんよ」と慰めるように言ったのだが、店員は無言だった。

考えてみれば、場所をとらないし、価格も単行本の三分の程度の電子書籍の出現は、必然の成り行きという一面があることは否定できない。事実、わが家では、増える一方の書物の重みで書斎の土台を二度も補強しなければならなかった。これだけEメールとインターネットが普及した現在、書物の世界だけが聖域を保てるはずがない。実際、電子辞書はもうおそらく四半世紀ほど前から普及して、高校生、大学生の大多数は携帯用持参で登校している。高校教師のわが娘と大学三年生の孫娘も御多分に漏れず、それなくして仕事や勉強ができない。

わたしはというと、これまた極端な紙辞書派で、翻訳をするときもあのかくて重い研究社新英和大辞典を仕事机の上ではなく畳の上に置いて使っているのである。なぜ畳の上かというと、引くたびに、運動兼ねてどっこいしょと机上に持ち上げるためである。お陰で、9月に76歳になるが、肩凝りは経験したことがない!自主的ストレスの効用?

それともう一つ大事な違いがある。紙書籍で一つの単語の語義を調べるためにページを開くと、姉妹語や関連語が一挙に見出されることが多く、一つの単語の立体的理解が可能となる。対して携帯用電子辞書は、目前に開かれるのは、一つの単語の語義の一部にすぎない。前者が鳥瞰的なのに対して、後者は虫瞰的?だといえよう。ただし小さいサイズの電子辞書に英和・和英・仏和・独

和・広辞苑まで収納されているとは、IT文化もすごい!

しかし、わたしが紙書籍の肩を持つのは運動兼用だけのためではない。さきほどの言葉通り、「地味で美しい装丁と活字」を備えた、手触り手応え豊かな活字本は永遠なのだ(永遠なのは巨人軍だけではない!)。近年の写植活字、パソコン活字の導入はさておき、グーテンベルグ聖書の出現以来600年近い歴史を持つ活字本の魅力をわたしは永遠の持続に値すると思っている。洗神的な言い方だ? 確かにその通り。しかしグーテンベルクの金属製活版印刷のルター訳新旧訳聖書(1450年頃刊行)の出現のおかげで、神の言葉が民衆のものに、ひいては全人類のものになりうる道が開かれたことを、われわれは忘れてはならない!このような輝かしい歴史のスケールに匹敵する歴史が電子書籍の普及によって再現するとは到底思えないのである。

私見だが、瞬時に今必要なテキストが目の前に現れる電子書籍は、最近はやりの「速読」に向いていると思う。対して紙書籍は精読、熟読向きだ。やはり両者は並行して存在し続けるであろう。速読と精読のどちらも欠かすことができないのだから。わたしのいう紙書籍の魅力はいわゆる贅を尽くした美麗本にだけに限られるのではない。そのような高価な本をわたしは一冊も持っていない。

敗戦後の昭和25年ごろ、書店で買い求めた弘文堂書店の、小さくて薄い、印象的な緑のカバーの、一冊70円のアテネ文庫でわたしはパスカルの『パンセ(抜粋)』とキルケゴールの説教『空の鳥、野の花のように』を読んだ。今でも懐かしい。やや厚いアテネ文庫・哲学者金子博士の『倫理』は繰り返し読んだ。今も、書棚を探せば、あるはずだ。

法律で定められていることは人間の最低限のモラルであって、もっとも基本的なこと、重要なモラルは六法全書には載っていない。たとえば「人と会ったら挨拶をしなければならぬ」という法律はない。しかしもしも社会に挨拶の慣習が欠けていたら、きわめて不安と危険に満ちた社会生活になるであろう。そうした趣旨の記述がわたしの心に深く刻まれている。

18歳頃人から借りて全巻読んだ、手触りの記憶も鮮やかな和紙の八雲版太宰治全集。

「微笑をもて正義をなせ」、「人間失格、もうわたしは人間ではなくなりました」、「病める貝に真珠は宿る」(アンドレーエフ)、いづれもこの全集で忘れられなかった言葉である。

浪人時代に読んだ英訳版と大学時代に読んだロシア語版『カラマーゾフ兄弟』は今も大切にしている。「愛とは、なんのことはない、労働と忍耐だ」というゾシマ長老の厳しくも美しい言葉は、人生の真実に開眼させてくれた。昨日読了したばかりの人文書院・三枝和子『ひとひらの舟-樋口一葉の生涯』(内容ばかりが装丁も美しい)は、双文社・中野博雄校注『樋口一葉』と共に、わたしの枕頭の書となるであろう。因みに後者はわたしの敬愛する故中野博雄先生(青山学院女子短大文学科名誉教授)から贈られた書物である。

9月の例会

9月25日 管区事務所にて10時半-12時

出席者 三浦万都美、元村多恵、佐藤光子、
坂下千郷・千佳・理沙、森泉弘次、澄江
テーマ 宮澤賢治論、パート2

(1) 「賢治の生涯とキリスト教との接点」

1896年8月27日岩手県花巻町に誕生して1933年37歳で亡くなるまでに2度の接点があった。県立盛岡中学時代に同市内のプロテスタント教会とカトリック教会の礼拝や行事に参加する期間があった。また1921年から5年間の県立花巻農学校教諭時代に内村鑑三門下のキリスト者齋藤宗次郎と親密な交流があった。

(2) 「よだかの星」について、異質な他者に対する人間の残酷さと、他者の否定的評価を引き受けてしまう人間の悲しさをよだかを通して象徴的に描いた賢治の人間観と人生観について話し合った。(森泉弘次記)

10月の例会

10月

神学院にて

参加者：阿部園子 / 元村多恵 / 森泉弘次 / 森泉澄江 / 三浦万都美 / 若生裕美 / 横山融 / 横山佳世 / 竹内紀子 / 河崎かれん / 辛島佐和子 / 坂下千郷 / 景山恭子
2009年4月から聖公会神学院でスピリチュアルディレクターの任に付かせていただいていることから、10月のMJM東京の例会は神学院内の私の住まいで開かせていただきました。懐かしい皆様をお迎えして家具のほとんどない床に13人プラス3人のこどもたち(河崎洋太郎くん、万里奈ちゃん / 辛島安希子ちゃん)が集い、主にある交わりをあたためながら恵みに満ちた時を過ごすことができました。聖書の箇所はマルコ10章35節から52節、イエスによる「なにをしてほしいのか？」というヤコブ、ヨハネに対する問いと盲人バルティマイに対する同じ問いを比較しながら教会では別々の主日に読まれる箇所をひとつの箇所として見つめなおす読み方をしてみました。すると中心に浮かびあがるメッセージは45節の「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」というイエスさまの言葉なのです。雨の降る土曜日にもかかわらず、用賀まで足を運んでくださった皆さまに感謝。今年も10月にお待ちしています。(景山恭子記)

11月例会

「クリスマスキャロルを歌いましょう」

出席者：佐藤光子、森泉弘次、森泉澄江、元村多恵、三浦

場所：バルナバ教会ホールにて

光子姉のピアノとご指導で、沢山のキャロルを歌いました。その中の数曲をクリスマス会で歌います。(三浦記)

MJM 12月 クリスマス会

12月5日(土曜日)

出席者：森泉夫妻、佐藤光子、三浦万都美、坂下千郷、阿部園子、マズアともこ、辛島ファミリー、元村多恵、山添圭子

佐藤光子さんのピアノの伴奏で、暖かい雰囲気の中、クリスマス聖歌を歌い、聖書朗読を行いました。二ユーヨークから一時帰国中のマズアともこさんに、飛び

入り参加していただき、おしゃべりが弾み、より一層楽しい会になりました。坂下さんのフルート、元村さんのリコーダーの演奏もありました。皆さんでプレゼント交換も行い、最後まで笑いの絶えない一時でした。(山添圭子記)

2010年1月例会

1月22日(金) 10時半より三鷹教会

出席：森泉夫妻、佐藤、竹内、三浦、山根

テキスト：フィレモンの手紙

「限界からの出発」という題で、

三鷹教会 平池芳樹牧師のお話でした。(山根弘子記)

2月例会

-宮澤賢治「風の又三郎」朗読と講演と討論-

2010年2月26日(金)

東京MJM例会・於聖バルナバ教会

講師 森泉弘次先生

主題：

この作品における風イメージの含意

幕開けの「どっどど どどうど どどうど どどうど」というバスの太い歌声と共に、岩手県花巻の山野を吹きまくる野分けの風景です。「青いくるみも吹きとばせ すっぱいくわりんもふきとばせ どっどど どどうど どどうど どどうど」と力強く続く。

「老人と海」 ヘミングウェイ そよ風 (breeze)、「嵐が丘」 エミリー・ブロンテ 強風 (stormy wind) とすると「風の又三郎」は疾風、魂を覚醒させ衰えた命に活力を蘇らせるような天来の風を連想させます。ルーアツハ(神の霊)は、ヘブライ語で「霊、息、風」を意味します。ギリシャ語のプネウマ「精神、命、息、風」よりもはるかにダイナミックな意味と音価をもつ言葉である。

討論：

それぞれが風イメージを話す。

地域の伝承、共同幻想に着いて話す。例「口裂き女」。

結論：

この作品から現代に生きるわたしたちが学ぶべきことは、いかなる環境においても怖れたり卑屈になつたりせず、個性を失わず、未知の環境に関心をもち、努めて人々と交流しようとする信頼深さ人を表面上のレベルで評価せずに仲間の一人として受け入れようとする素直さ

分校の生徒達が高田三郎を受け入れる媒介になったのは、「風の又三郎」という地域の伝承、共同幻想である。この場合はプラスに働いた例だが、現代の都市的共同幻想の場合はどうか？

日本文化には風雅とか風流とか「風」のイメージへの愛着が伝統的にある。この作品には、先に述べたルーアツハがいつも作品全体を吹き抜けている気がする。宮澤賢治は明治時代の古川工業による渡良瀬川汚染問題に深い関心を抱いていたと思われる。他に田中正造、内村鑑三、齋藤宗次郎との交流も彼の作品に多大な影響を与えていると考える。

朗読および担当 竹内紀子

3月例会

植松功氏による「テゼの祈り」の会

出席者：森泉弘次・澄江、佐藤、辛島佐和子・安希子、坂下千郷

♪主こそ誠の救い 永久の喜び

我が力、我が歌

主のみ目を信じて決して恐れない。♪ (イザヤ12:2)

✦阪神大震災のとき、この歌を何十回も歌いながら、行方不明になった友人を尋ね求めた人がいた。歌うことで絶望の中でもイエスと共にある喜びが宿り、何処かで誰かを支える喜びが広がっていく。今ここで歌うことでハイチのそしてチリの人達にも伝わるかもしれない。

✦「夜と霧」の著者は全てを剥奪され、アウシュビッツの強制収容所にて悲惨な生活を強いられる中で、夕日の美しさに感動している人を見る。過酷な重労働に疲れ果て、明日の命も知れないという時に、人間の深い所にある感性をまだ失っていないことに感銘を受け、彼も身の上不明の妻の面影をしい「お前に会えてよかった。」と話しかける。絶望の闇の中に光がある。

✦この世で最も悲惨なことは十字架上の死。死刑囚としての惨めさと残さ。イエスが十字架につけられていた時、両側に二人の犯罪者がいた、そのうち一人がイエスに言った。

♪イエスよ、御国においてになるときに

イエスよ、私を思い出してください。♪

イエスは答えられた。

♪真に真にあなたは今日

私と共に楽園にいる♪ (ルカ23:42-43)

最たる絶望の闇の中に光があり、イエスは最後までひとりではなかった。

✦東大医学部卒の優秀な医師であった若井さんは若年性アルツハイマー罹り、無能は状態に急降下した。しかし、そのことを公表することで苦しみを分かち合い、同じような不幸や挫折に苦しむ人達の慰めとなり、罹患しなければ医療で救えた人の数よりも多くの人を絶望から救えるかもしれないという思いに至る。

✦重度の障害者の有田さん。フィリピンで開催された国際青年会議に真っ先に応募した。ほとんどすべての事を他人の世話にならなければ生活できない身の上について、彼は語った。「私は人を信頼しないと生きていけません。だから私は人を信頼するのです。親のことを恨んではいけません。『命の充満』とは、感謝することです。」と。

✦絶望の淵にある時、闇を消す(解決する)のではなく、闇を凌駕するのは、それはキリストが闇を引き受けてくださるからできることです。ひとりぼっちではない。共にいると気づかせてくれるのも仲間(教会の家族)であり、キリスト教は仲間を信じる宗教なのです。“キリストの言葉があなた方に宿るように歌いなさい。

主に向かって心からほめ歌いなさい。

あらゆることについて神に感謝しなさい。”

(エフエソ5:19)

とパウロが言うように、さあ、私達ももう一度皆で声高らかに歌いましょう。

♪見よ、兄弟が共に座っている。

なんとという恵み、何という喜び♪(詩編133-1)

♪歌え、主に感謝 恵み深き主に

歌え、主に感謝 アレルヤ♪ (坂下千郷記)

4月例会

3月26日(金) 12:00

大森アグネス教会にて「十字架の道行」

出席者: 森泉澄江・坂下千郷・三浦万都美・阿部園子

ここ数年受苦日の礼拝をアグネスの皆様と共に捧げ

していますが、担当の都合で1週前の大森中の毎週金曜日に行われている「十字架の道行」に来ていただくことにしました。アグネス教会は礼拝堂が改築中でホールでの礼拝になりました。来年は新たに改築された礼拝堂での受苦日の礼拝をと思っております。(阿部園子記)

5月例会

報告 担当佐藤光子

日時: 2010年5月14日 10:30~12:00

場所: 日本基督教団新生教会

講師: 方亢聖親牧師

発題: 「現代のスピリチュアル・ブームの背景」

出席者: 坂下、佐藤(光)竹内、三浦、森泉弘次・澄江

佐藤の開会の祈りを持って始めた。

用意されたレジュメに沿ってブームが起こった背景の解説があった。伝統的宗教の衰退、今まで学校教育を支えてきた科学と人文教養に対する信頼の衰退、宗教、科学、経済も信頼できない状況で精神的な欲求に応えるためほかの何かを求めるようになる。

* キリスト教的霊性とスピリチュアルとの違い。三つの重要ポイント。

非常に楽観的な価値観。罪の認識が一切ない自分の罪がないから改心もなく罪の許しもない。自分はOK であることが前提

イエスは主、と告白しない。イエスは極度に進化した意識体でしかない。悟りを開いた超人、生き方の模範者のような存在である。イエスのために命を捧げたり命をかけることもない。礼拝出席や献金もなく責任を負う必要がない。

イエスの十字架、苦しみがなくなりがって罪のあがない十字架の死の贖いに続く復活の喜びもない。

結論: スピリチュアルとは毒にも薬にもならない生き方市民講座である。心地よいものに触れたい人たちが癒しと勘違いして爽やかさを求めているとしか考えられない。これに人生を賭けることもない。ただのっぺりとした生活があるだけ。結局はブームで終わる運命。

現実適応について4つの構え

I'm OK, you're OK 相互に信頼関係と愛情がある。問題が起こっても現実的に対応できる。最も望ましい他社との関係。

I'm not OK. You're OK 自分に自信がない。落ち込みやすい。相手の長所が拡大評価される。問題から逃げる。I'm OK. You're not OK. 上から目線の人。他人の短所を拡大するので批判めいた言動が多い。問題処理に他者を排除する。

I'm not OK. You're not OK. 行き詰まりタイプで自分も人も信頼できない。絶望感、空しさを抱え八方塞がりになり暴力的になったりひきこもったりする。反社会的な行動を起こすこともある。

* 状況により構えが変化する構えもある。例えば、会社では3)でも自宅に戻れば2)になる男性もいるだろう。望ましい構えは1)であるからさまざまな経験を通して自分を成長させ他者への信頼感や愛情を持つことが出来るようにしたい。

感想意見など活発にあり充実した会であった。最後に「主の祈り」を全員で唱え終了した。(文責佐藤光子)

6月例会

6月30日 (水) 10時半~12時
管区事務所会議室
ルカの福音書7章36-50
~信仰を育て深める~

出席：森泉、坂下、佐藤、三浦、元村

まず聖書の箇所を各自で読み、感動したところ、心に突き刺さったところ、わからないところ、など、各自が心に感じたものを記号化しました。

次に、皆さんで、1節ずつ声に出して読みました。

そして、1節ずつ、皆さんの心に感じたものを発表しあい、様々な思いや理解を共有しました。

同じ場所を読んでいるのですが、様々な思いがあることに気づかされました。また、自分がどんな気持ちでいたのか、皆さんからの質問で気づかされました。聖書の言葉も含めて、人の心に静かに耳を傾ける事ができた1時間半でした。(元村多恵記)

感謝です。
同封の振込用紙でMJM東京への年会費1,500円お願いいたします。

皆様猛暑に負けず、9月にお会いしましょう。



7月総会

2010年9月からの担当予定

編集後記 MJM(NY)訪問記

9月21日 10:30 管区事務所会議室

森泉先生 (キリシタン問題I)

- 10月 景山恭子さん
- 11月 アドベント 担当：三浦
- 12月 クリスマス 担当：山添、参加者全員で
- 2010年 1月 (1月21日予定)
三鷹教会にて 担当：山根
- 2月 森泉先生 (キリシタン問題II)
- 3月 植松功さんによる テゼの会
担当：坂下
- 4月 受苦日礼拝 担当：阿部
- 5月 新生教会 担当：佐藤
- 6月 キヤンドル会 担当：元村
- 7月 総会

TEKNA クリスマス号 未定募集中
イースター号 未定募集中
8月号 阿部

TEKNAのクリスマス号・イースター号の担当が未定です。どなたか、メッセージを担当していただけないでしょうか？長さは短くても長くても結構です。募集しておりますので、三浦までご連絡を。

会計報告 別紙参照 会計係：元村

TEKNA発送 例会の連絡係：三浦

* 献金先：MJMNY, マリア食堂,
E.S.A.
ほかに献金先希望がありましたらお知らせください。

* 昨年度聖歌を必ず歌うようにという事で定着しましたが、今年度は「主こそまことの救い」を毎回歌う事にしようという提案がなされました。担当の方はよろしくお祈いします。

* 植松首座主教から切手のご寄付を頂いております。

今年は13年ぶりに海外に行くことになりました。現在バンクーバーに留学中の娘とケネディー空港で待ち合わせて7月22日から25日までNYに滞在しました。NYは帰国後初めてなので21年ぶりです。日本同様の暑さには驚きでした。

24日はブロンクスビルのロイド家で行われた聖書研究会に参加するお恵みが与えられルカによる福音書のマルタとマリアの話のところが英語・日本語交えて、自由にみんなで思いを分かち合いました。会が始まると以前と同様に自由に自分の思いを言う事ができて20年以上の月日を感じない故郷に戻ったような時間を過ごすことができました。聖研の後は皆さんの持ち寄りの夕食を頂きました。すべてがタイムスリップしたようでした。ロイド先生ご夫妻もとてもお元気でした。お二人でスイミングも始められているようです。

その日は景山さんのお宅に泊めていただき、翌日は懐かしいタリータウンのクライストチャーチの主日礼拝に景山さんに連れて行っていただいて、出席することができました。女性の司祭によるエネルギーギッシュなお説教で懐かしい顔も数人お目にかかることができました。

8月の4週目の週末には毎年MJMのキャンプを行うとの事。来年は是非日本からも出席をと言うご提案を頂きました。MJM東京の皆さんでご都合のつく方、1年がかりで計画してみませんか？ 阿部園子

